

## インサイト

### “IMF・世銀東京総会”公式セミナーに参加して

福田幸正  
主任研究員  
(公財) 国際通貨研究所

10月12日から14日までの日程でIMF・世銀第67回年次総会が開催された。今回の総会は48年ぶりに東京で開催されたものであるが、当初はエジプトで開催されることになっていた。ところが、エジプトが「アラブの春」の混乱の影響を受けたので、急遽日本が受け入れることになったものである。

東京総会の総括は、ネット上で検索しても意外とまとまったものが見当たらないが、BTMUのワシントン所長の報告書<sup>1</sup>が一番包括的と思われる。更に、この種の報告書にしては珍しく著者の並々ならない熱い思いが込められているので、是非ご覧いただきたい。

さて、10月第2週はIMF・世銀東京総会に因んで数々のセミナーが開催された。SRIDの会員の皆様の中で参加された方、何らかの形で関与された方も大勢いたと思う。当初自分は、総会ホスト国の国民の一人として、セミナーに参加すること自体に意義がある、と単純に思っていた。勤務先の長の檄も少なからず影響した。以下はその抜粋である。

「・・・いま世界で日本経済に対する見方が微妙に変っているからである。・・・2年前迄日本はすっかり活気を失いひたすら衰退の道を歩む国と思われていた。文字通り日本は世界経済のレーダーの画面から消えていたのである。ところが、震災からの復興、米国やユーロ圏より高い成長率、安定した金融システム、消費税増税法案の成立等を見て、皮肉なことにこのところ日本の評価は上昇しているのである。

この絶好のチャンスをとらえて、総会に集まる何千人の世界中の政治家・金融人・メディア・学界の人達に日本の価値を印象付けるべきだ。いま世界が失ってしまったのではないかと一番心配している、強固な民主主義と市場経済と自律心が日本にはまだあるらしいと世界の人達が感じてくれたら、それは日本にとって大変なごほうびになる。」(「IMF世銀総会の東京開催に寄せて」、行天豊雄が語る 第3回、2012年9月、enフォーラム)

総会の直前の10月6日(土)と7日(日)、日比谷公園で開催された恒例の「グロー

---

<sup>1</sup> <http://www3.keizaireport.com/file/BTMU-WDCINFO2012-No022.pdf>

バル・フェスタ 2012」<sup>2</sup>に行った。総会直前ということもあってか、例年とは違った高揚感が会場全体に漂っていた。イベントの一つ、大学生主催のセッションでのある学生活動家の発言にハッと目を開かされた。その学生曰く「日本の大学生による国際貢献活動においても全体としてアドボカシー能力が弱い。数日後に IMF・世銀総会が東京で開催されるが、ここにいる学生たちの中で一体何人が参加の登録をしたのか？学生であっても公式セミナーに参加でき、IMF のラガルド専務理事や世銀のキム総裁と差しで議論ができる機会もある。またとないチャンスじゃないか！」

その通りだ！ただ参加するだけなら誰でもできる。出る限りは、質疑応答時によい質問を投げかけて建設的に議論に貢献することが重要、と考え直した。そこで 3 つのセッションで質問した。それらは、世銀や IMF のホームページでビデオが掲載されているので、手前味噌的で大変お恥ずかしいのだが、以下のとおりハイパーリンクを添付させていただきたい（\*：福田の発言時間）。

なお、1. の質問では、キム世銀総裁は丁寧に応答してくれたが、2. と 3. の質問は直球過ぎたせいか、あるいは福田の舌足らずのためか、回答はうまく噛み合っていない。

1. キム世銀総裁インタビュー ("Wall Street Journal, The Big Interview-Fighting Poverty in Times of Crisis" Oct.11, 2012) (\* 4 2 : 4 7)

【質問趣旨：“inclusive growth”の定義は何か？：なぜ最近ことさらに“inclusion”が強調されているのか？途上国の貧困層を国民同胞と扱わず exclude し続けてきたのは途上国の支配層ではないか？】

なお、冒頭での「日中韓の連携を恐れる者（国）は誰か？」という質問は、敢えて質問のみに留めたが、とにかく日中韓の複雑な関係を理解しているアジア出身の人物が世銀総裁に就任したことは、歓迎すべきことと感じた。

<http://www.imf.org/external/am/2011/mmedia/view.aspx?vid=1892928160001>

2. 天然資源管理 ("Good Management of Natural Resources: Lessons and Opportunities for Low-Income Countries" Oct.10, 2012) (\* 5 6 : 2 9)

【ポール・コリエ教授に対する質問：

「足りないキャパシティーを補うためにキャパシティーのアウトソースが考えられるが、アウトソースするにもそれ相応の能力を要する。アウトソースの罨は何か？」】

【クレア・ショート（元 DfID 長官）に対する質問：

「独裁的政府に外部からの圧力によらず自発的に透明性を推進させるようなインセンティブはなにか？」】

<http://www.imf.org/external/am/2011/mmedia/view.aspx?vid=1890653934001>

3. 中東地域の雇用 ("Free to Prosper: Jobs in the Middle East and North Africa"

---

<sup>2</sup> <http://www.gfjapan.com/>

Oct.10, 2012) (\* 1 : 1 7 : 4 6)

【質問趣旨：中東地域経済でもインフォーマル・セクターの占める割合が高いが、なぜ、彼らはインフォーマルな状態に留まっているのか？制度の問題なら対応のしようもあろうが、脱税が文化として根付いているのなら困難。（「アラブの春」の今後の成功の尺度の一つには、インフォーマル・セクターの収縮の度合いがあるのでは、というのが問題意識）】

<http://live.worldbank.org/jobs-middle-east-and-north-africa-webcast>

結構緊張感を覚えたが、総会独特の雰囲気にとっぷり浸かり十分エンジョイさせていただいた。

セミナーの場外で、ぼったり件の学生に会った。自分の息子ぐらいの青年に向かって、肩を押してくれたことに対して深く感謝の意を表した（学生はキョトンとしていたが）。そして、「ところで、君はラガルド専務理事やキム総裁と話ができたか？」と聞いたところ、学生は「まだ」と頭を掻いた。「僕は君の言葉に大いに触発されてセミナーに臨んだ。君も自分の発言には責任を持てよ」と言ってお互い笑って別れた。この学生に代表される若い世代に期待したい。